

まとまりのある英文を書く力を育てる英語科学習指導 ～思考の流れを作るワークシートの工夫を通して～

要約

社会や経済がグローバル化する中で、国際語としての英語の重要性が増している。インターネット等の情報機器の発達により、新聞や SNS で世界のニュースに触れたり、世界中の人々とコミュニケーションを取ったりすることが可能になった。これからの子どもたちが 21 世紀を生き抜くためには、英語を用いて文化の異なる人々と意思の疎通を図ろうとする態度や自分の考えや気持ち、情報を相手に伝えたり、相手のことを理解したりする能力が必要となってくる。

また、現行の学習指導要領では 4 技能をバランスよく指導して「発信力」の向上を重視している。「書くこと」については自分の考えや気持ちなどを正しく伝えられるように、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視することとなった。このことから、まとまりのある英文を書く力を育てることは価値があると考えられる。

そこで本研究では、思考の流れを作るワークシートの工夫を通して、文法能力、談話能力の向上を図り、まとまりのある英文を書く力を育てる。

思考の流れを作るワークシートの工夫とは次のようなものである。

- (1) 第一次 ALT の話を聞き、イメージマップを作成し、課題を設定する。[making ideas]
- (2) 第二次 新出言語材料を用いた 1 文英作文からアウトラインを作成し[making outline]、さらに、英作文を書いて[writing an essay]生徒同士で読み合っ
てアドバイス活動を行う。[reading friend's essay]
- (3) 第三次 もらったアドバイスをもとに英作文を再構築し[rewriting]、それを A L T に伝える活動を行う。

成果

- 思考の流れを作るワークシートを用いることは、書く過程を「見える」化することで、生徒のアイデアの創出、アウトラインの作成、文章の構築を助けた。
- first, second, third といった接続詞を用いてアウトラインを作成することが定着していったことで説明、理由、例示について言及する談話能力が向上した。

課題

- 生徒同士で読み合い付加修正する活動において、どのような点を付加修正するかという視点をさらに多く与えたり、活動の形態をグループからペアにしたりするなどの手立てを講じることで、さらに文法能力を向上させることができる。
- 生徒が自ら表現したいという意欲を高める生徒の体験に根差した活動主題を設定していく必要がある。

キーワード:

思考の流れを作るワークシート まとまりのある英文（文法能力、談話能力）

1 主題設定の理由

(1) 社会の動向と要請から

社会や経済がグローバル化する中で、国際語としての英語の重要性が増している。近年、インターネット等の情報機器の発達により、新聞やSNSで世界のニュースに触れたり、世界中の人々とコミュニケーションを取ったりすることが可能になった。人の行き来が増え、外国の人とやり取りをする機会も増えている。これからの子どもたちが21世紀を生き抜くためには、英語を用いて文化の異なる人々と意思の疎通を図ろうとする態度や自分の考えや気持ち、情報を相手に伝えたり、相手のことを理解したりする能力が必要となってくる。

また、現行の学習指導要領では4技能をバランスよく指導して「発信力」の向上を重視している。「書くこと」については自分の考えや気持ちなどを正しく伝えられるように、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視することとなった。このことから、まとまりのある英文を書く力を育てることは価値があるものであると考える。

(2) 生徒の実態から

4月に実施された標準学力分析検査の結果ではABCの3段階評価でC評価の生徒の割合が言語や文化の知識・理解は10%、外国語理解の能力が13%だったのに対し、外国語表現の能力が18%であった。また、事前のアンケートで1つの英文を書くことが苦手だと答えた生徒は26%だったのに対し、まとまりのある英文を書くことが苦手だと答えた生徒は50%だった。以上のことからまとまりのある英文で自分の思いや考えを述べたり、書いたりして伝えることが苦手であることが明らかになり、生徒のまとまりのある英文を書く力を育てることは価値があるものであると考えた。

2 研究主題・副題の意味

(1) 研究主題の意味

○ 「まとまりのある英文」とは

まとまりのある英文とは、田畑・松井(2008)によると「ある一つのテーマに関して、論理的一貫性を持って書かれたもの」とされている。本研究では「まとまりのある英文」を「伝えたいテーマや文脈に合う適切な言語材料や語句を使い、理由や説明、例示を加えて構成された複数の英文」とする。

○ 「まとまりのある英文を書く力」とは

まとまりのある英文を書く力とは、伝えたいテーマや文脈に合う適切な言語材料や語句を使い、理由や説明、例示を加えて構成された複数の英文を書くことができることである。

○ 「まとまりのある英文を書く力を育てる」とは

まとまりのある英文を書く力を育てるとは、伝えたいテーマや文脈に合う適切な言語材料や語句を使い、理由や説明、例示を加えて構成された複数の英文を書くことができる文法能力、談話能力を育てることである。本研究では「まとまりのある英文を書く力」を以下の構成要素で捉える。

文法能力	伝えたいテーマや文脈に合う適切な言語材料や語句を使って文を書く力
談話能力	伝えたいテーマや文脈について理由や説明、例示を加えた複数の文から構成された複数の英文を書く力

(2) 副題の意味

○ 「思考の流れ」とは

まとまりのある英文を書く際の 5 つの活動(1)アイデアの創出(2)アウトラインの作成(3)文章の構築(4)生徒同士で読み合うアドバイス活動(5)アドバイスをもとにした文章の再構築)における思考の過程のことである。

○ 「思考の流れを作る」とは

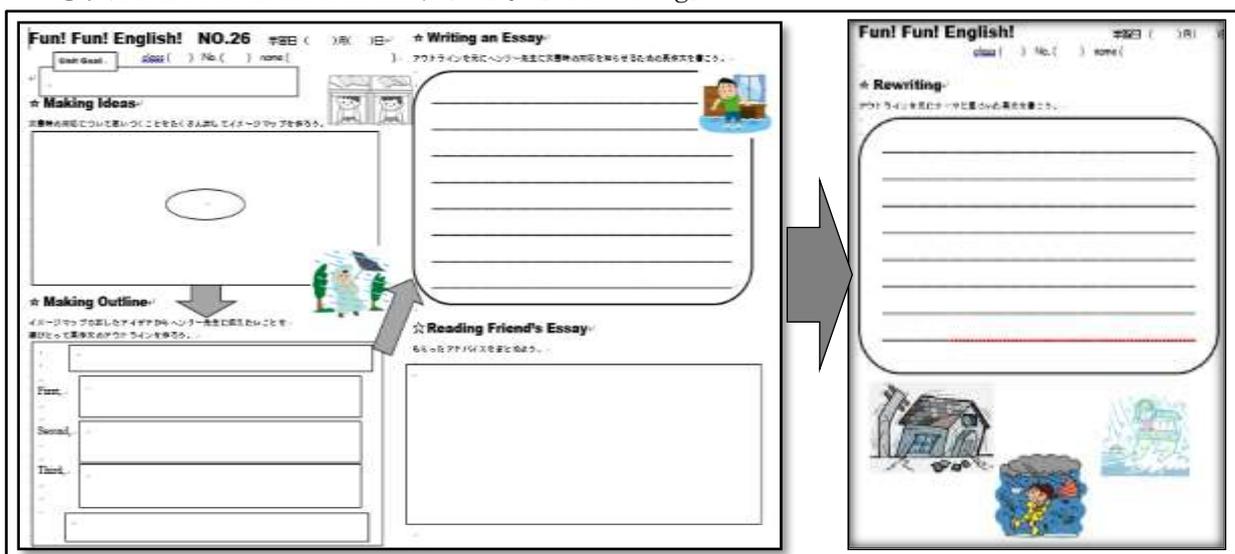
まとまりのある英文を書く際の 5 つの活動における思考の過程をつなぎ、「見える」化することである。

○ 「思考の流れを作るワークシート」とは

まとまりのある英文を書く際の 5 つの活動における思考の過程をつなぎ、「見える」化するためのワークシートのことである。

○ 「思考の流れを作るワークシートの工夫」とは

まとまりのある英文を書く際の 5 つの過程をつなぎ、「見える」化するワークシートを工夫することである。具体的には「思考の流れを作るワークシート」に次の 5 つの活動を位置づける。①イメージマップを作ることでアイデアを創出する。[making ideas] ②イメージマップから特に伝えたい項目を選んで新出言語材料を用いた 1 文英作文からアウトラインを書く。[making outline]③アウトラインのもと英文を書く。[writing an essay]④生徒同士で作文を読んでアドバイス活動を行う。[reading friend's essay] ⑤英文を付加修正し再構築する。[rewriting]



【資料 1】 実践 1 で用いたワークシート

3 研究の目標

中学校第 3 学年英語科学習指導において、まとまりのある英文を書く力を育てる英語科学習指導に在り方を究明する。

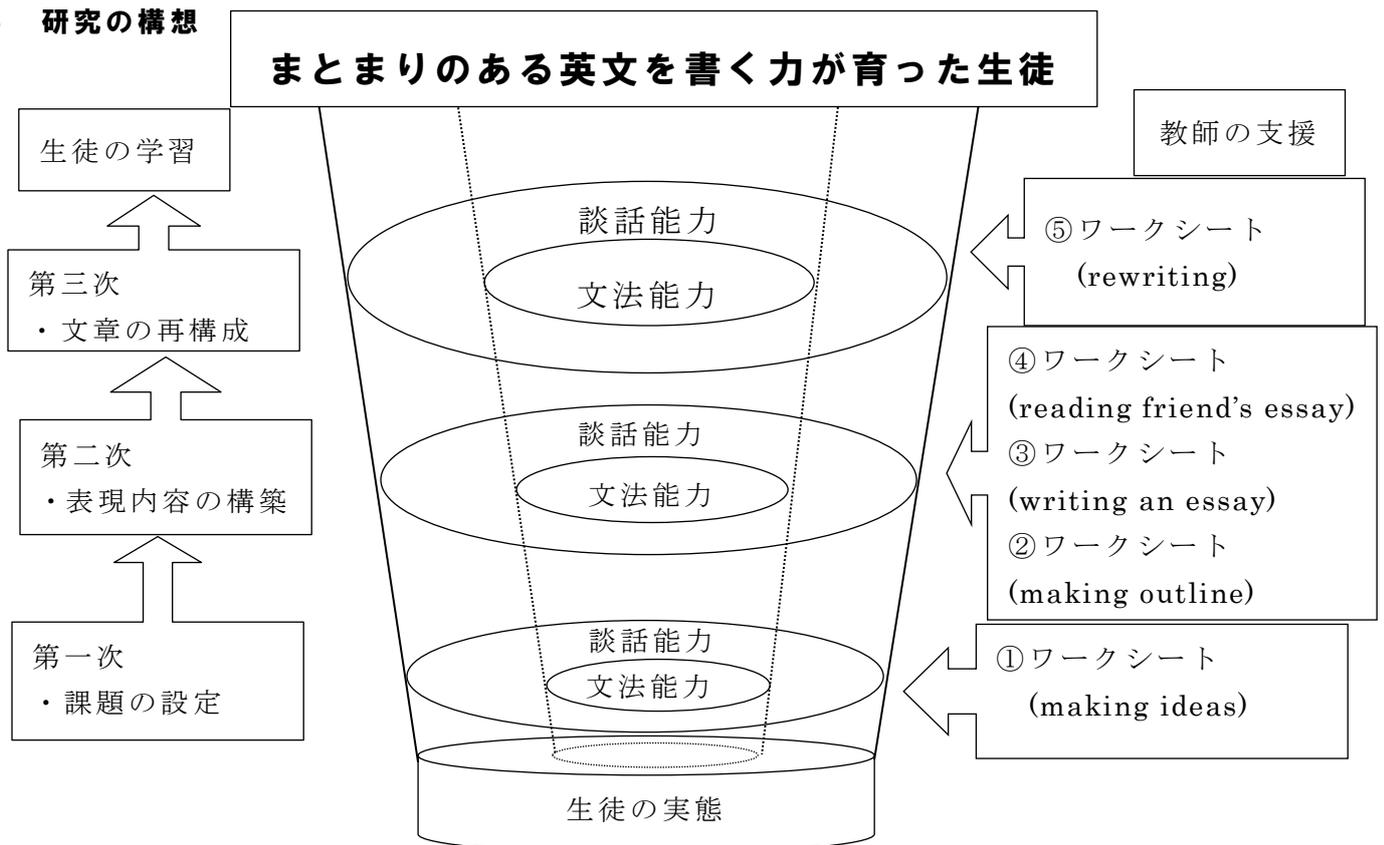
4 研究の仮設

中学校第3学年英語科学習指導において、思考の流れを作るワークシートの工夫を行えば、生徒のまとまりのある英文を書く力を育てることができるであろう。

5 仮設検証の内容と方法

検証内容	検証方法	評価基準	
伝えたいテーマや文脈に合う適切な言語材料や語句を使って文を書くことができたか。(文法能力)	単元のまとめの英作文の分析(適切な言語材料や語句の使用)	A	新出言語材料を適切に文脈に合う形で3つ以上使い、かつ文章全体において概ね文を正しく書くことができる。
		B	新出言語材料を適切に文脈に合う形で2つ使って、かつ文章全体において概ね文を正しく書くことができる。
		C	新出言語材料を用いた文が1文以下で、かつ文章全体にエラーが多い。
伝えたいテーマや文脈について理由や説明、例示を加えた複数の文から構成された複数の英文を書くことができたか。(談話能力)	・単元のまとめの英作文の分析(理由・説明・例示などの付加、文の数)	A	理由、説明、例示の文が5文以上あり、かつ文章全体で7文以上書くことができる。
		B	理由、説明、例示の文が2~4文あり、かつ文章全体で5文以上書くことができる。
		C	文章全体で4文以下である。
文法能力と談話能力の判断において、文法A、談話AのときはA(AA=A)以下、BA=A、AB=B、BB=B、CB=B、BC=C、CC=Cと判断する。			

6 研究の構想



7 研究の実際

(1) 実践1 ALTに日本での災害への対処について伝えよう (Unit 4 To Our Future Generation)

次	時	学習活動・内容	ねらいと手だて	評価基準
一	1 ①	1 活動全体の活動の流れを把握し、課題を知る。 (1) ALTとJLTが対話しているビデオを見て、内容を理解する。 (2) 場面設定を確認する。 (3) イメージマップを作り大まかな内容を考える。[making ideas] (4) ペアで対話シートを用いて対話をして自分のことを表現する。 (5) 表現できなかった内容を確認する。	災害の対処方法について書く活動への興味・関心を高め、内容や英語の表現についての自分の課題を明確にすることができるようにする。 ・学習の方向性をつかむことができようようにJLTとALTが対話しているビデオを見る場を設定する。 ・これから学ぶ言語材料を明確にするため、イメージマップを作りペアで会話をする場を設定する。	本活動で書く内容を認識することができるように、making idea でイメージマップを作成する。(関：ワークシート)
二	2 ⑥	2 新出言語材料学習し、緊急時の対処方法に関わる1文英作文を書く。 (1) 学習プリントや教科書を用いて疑問詞+to 不定詞 it... for (人) to. want (人) to 等の新出言語材料を理解し、新出言語材料を用いた1文英作文を書いて英作文のアウトラインを作る。[making outline] 3 まとめの英作文を書く。	災害時の対処方法に関わる内容を疑問詞+to 不定詞、it... for (人) to～、want (人) to を用いて文を構築できるようにする ・新出言語材料を学ぶ際は、まとめの英作文に繋がるように、関わりのある英文を提示する。 ・1文英作文がまとめの英作文に繋がるようにするため、ワークシートを用いて英作文のアウトラインを作る場を設定する。 ・互いの英文の良さ、改善点を整理できるようにするため、付箋紙を用いてアドバイス活動を行う場を設定する。	新出言語材料を理解することができるか。 (知：文法プリント) 教科書の本文の内容を理解することができるか。 (理：本文プリント) 他の生徒の作文を読んで、適切にアドバイスすることができるか。(理：付箋紙)
三	1 ①	4 まとめの英作文をもとに再構築する。 (1) もらったアドバイスを基に英文を付加修正する。[rewriting] (2) 日本での災害時の対処法を書いた英作文を用いてALTに伝える。	災害時の対処方法についての英文を説明や理由、例示を加えた複数の文から構成された英文で書くことができる。 ・自分の英作文を再構築することができるように、前時に共有した良さ、改善点を整理する場を持つ。	災害時の対処方法をまとまりのある英文で書くことができるか。(表：英作文ワークシート) 災害時の対処法をALTに伝えることができるか。(表：ビデオ)

① 第一次

災害の対処方法について書く活動への興味・関心を高め、内容や英語の表現についての自分の課題を明確にすることができるようにする。

第一次の活動では、JETとALTが近年の日本での大きな災害について会話し、最後にALTから災害への対処法を教えてほしいと生徒に問かけるVTRを見せた。その後、日本で起こりうる災害の例を出し合わせてイメージマップを作成させた。ここではワークシートの[making ideas]を用いた。それをもとに生徒に会話をさせて、英語で表現できなかった内容を確認させ、新出言語材料の学習への課題意識を持たせた。

② 第二次

災害時の対処方法に関わる内容を疑問詞+to不定詞、it... for (人) to ~、want (人) to を用いて文を構築できるようにする

第二次の活動ではまず、友達へのインタビューや、ビンゴゲームなどの活動を通して新出言語材料を学習させた。ここでは、インタビューやゲームに出てくる文を災害への対処と関連のあるものにし、各時の最後に新出言語材料を使ってまとめの英作文に繋がる1文英作文をワークシート[making outline]に書かせた。その後、教科書で東日本大震災に関する英文を読み、まとめの英作文で使えるような英文を蓄積させた。ここでは、ワークシート[making outline]に蓄積した英文を書かせ、まとまりのある英文になるようにした。最後に、英作文を書き、生徒同士で読みあい付加修正を加えさせた。ここでは最初に教師が接続詞の使い方を意図的に間違えた英作文を提示することで付加修正の視点を与えた。さらには、生徒にワークシートに英作文を書かせ[writing an essay]、お互いに英作文を読み合い、付箋紙に相手へのアドバイスを書かせた。[reading friend's essay]

③ 第三次

災害時の対処方法についての英文を説明や理由、例示を加えた複数の文から構成された英文で書くことができる。

第三次の活動では、第二次でもらったアドバイスをもとに英文を再構築させた。再構築した日本での災害時の対処法についての英文を用いてALTに読んで伝えさせた。

I'll tell you what to do in case of earthquake.

First, it is very necessary to hide under the desk because you must protect your head.

Second, it is important to keep staying there until stop it.

Third, after stop it, It is important to go shelter.

I don't want you to forget them.

新出言語材料の使用①

新出言語材料の使用②

because を用いた理由の文

first, second, third を用いた例示の文

新出言語材料の使用③

【資料2】実践1で生徒が書いた英作文

(2) 実践2の実際 奈良か京都への旅行をALTにプレゼンしよう
(Unit 5 Living with Robots – For or Against)

次	時	学習活動・内容	ねらいと手だて	評価基準
一	1 ②	1 活動全体の活動の流れを把握し、課題を知る。 (1)教科書で議論をしている場面を読んで、自分の意見を主張することへの意欲を高める。 (2) ALT の問いかけを聞いて、プレゼンをすることを確認する。 (3) プレゼンの原稿を書くためにイメージマップを作り、大まかな内容を考え、プレゼンに必要な表現を確認する。[making ideas]	奈良か京都かをALTにプレゼンする活動への興味・関心を高め、内容や英語の表現についての自分の課題を明確にすることができるようにする。 ・学習の方向性をつかむことができるように、ALTが奈良と京都のどちらに行くべきか問いかけるVTRを観る場を設定する。 ・これから学ぶべき言語材料を明確にするため、イメージマップを作る場を設定する。	本活動で書く内容を認識することができるように、 making idea でイメージマップを作成する。(関：ワークシート)
二	1 ⑥ 2 ②	2 現在分詞、過去分詞、間接疑問文などの新出言語材料を学習し、奈良か京都かをALTにプレゼンする原稿を書く。 (1) 学習プリントや教科書から現在分詞、過去分詞、間接疑問文などの新出言語材料を理解し、奈良か京都のプレゼンの原稿で使える1文英作文を書いてアウトラインを作る。[making outline] 3 まとめの英作文を書く。 (1) アウトラインをもとに英文を書く。[writing an essay] (2) 作った英作文をお互いに読み合うアドバイス活動を行う。[reading friend's essay]	奈良か京都かをALTにプレゼンするための原稿を、現在分詞、過去分詞、間接疑問文などの新出言語材料を用いて書くことができるようにする。 ・まとめのプレゼンに繋がるように、新出言語材料を学ぶ際はテーマに関わる英文を提示する。 ・1文英作文がまとめの英作文に繋がるようにするため、ワークシートを用いて英作文のアウトラインを作る場を設定する。 ・互いの英文の良さ、改善点を整理できるようにするため、付箋紙を用いてアドバイス活動を行う場を設定する。	新出言語材料を理解できているか。 (知：学習プリント) 教科書の本文の内容を理解できているか。 (理：本文学習プリント)
三	1 ① 2 ②	4 まとめの英作文を再構築する。 (1) もらったアドバイスをもとに英文を付加修正する。[rewriting] 5 作った原稿をもとに京都か奈良かどちらかをプレゼンする。 (1) 京都派と奈良派で分かれてプレゼンを行った後、それぞれ4本の原稿にまとめる。 (2) 代表がプレゼンを行い、ALTに評価してもらう。	作った原稿をもとに奈良か京都かをALTにプレゼンをすることができるようにする。 ・自分の英作文を再構築することができるように、前時に共有した良さ、改善点を整理する場を設定する。 ・プレゼンをより魅力的にするために、写真や具体物を用意するように伝える。	奈良か京都についてまとまりのある英文で書くことができているか。 (表：英作文ワークシート) 京都か奈良についてALTに伝えることができているか。(表：ビデオ)

① 第一次

奈良か京都かをALTにプレゼンする活動への興味・関心を高め、内容や英語の表現についての自分の課題を明確にすることができるようにする。

第一次の活動では、Unit6 がロボットについて議論している場面だったので、ここを読んで内容を理解し、意見を主張することへの意欲を高めた。次に、ALTが京都と奈良、旅行に行くならどちらがいいかと問かけるVTRを視聴し、京都か奈良をプレゼンすることを確認させた。検証2では生徒の表現への意欲をさらに高めるために、修学旅行で奈良と京都に行った生徒の体験に根差した活動主題を選択した。次に各時でプレゼンの内容を考えるために、イメージマップを作成させた[making ideas]。実践1ではイメージマップでアイデアの創出が十分にできなかった生徒がいたので、実践2では互いにアドバイスをしながらイメージマップを作成させた。



【資料3】生徒の作ったイメージマップ

② 第二次

奈良か京都かをALTにプレゼンするための原稿を、現在分詞、過去分詞、間接疑問文などの新出言語材料を用いて書くことができるようにする。

第二次の活動は学習プリントで現在分詞、過去分詞、間接疑問文などの新出言語材料を理解し、奈良か京都のプレゼンの原稿で使える1文英作文を書いてアウトラインを作らせた[making outline]。ここでは写真を見せ合い「これが何か知っていますか」などのクイズを行ったり、ビンゴをしたりする活動を行った。実践1では新出言語材料を学習するプリントと1文英作文を蓄積させるワークシートが違うことに不便さを感じたため、実践2では学習プリントに英文を蓄積させる1文英作文を作らせた。次に教科書の議論をしている場面を再度読んで、意見を主張する表現を学習させた。次に作った1文英作文をもとにワークシートに英作文を行った[writing an essay]。さらには、新出言語材料のまとめ、を行った後に互いの英文を読みアドバイス活動を行った[reading friend's essay]。

【資料5】第二次の段階で生徒が書いた英文[writing an essay]とそれに対するアドバイス[reading friend's essay]

③ 第三次

作った原稿をもとに奈良か京都かをALTにプレゼンをすることができるようにする。

第三次の活動では、まず第二次でのアドバイス活動をもとに、プレゼンの原稿を付加修正させた。次に、作ったプレゼンの原稿を持ち寄ってそれぞれ4つの原稿にまとめ、代表者がそれを発表させ、ALTに評価をしてもらった。

The image shows a student's handwritten English presentation about Nara. The text is as follows:

I'm going to talk about Nara.
 First, Do you know who he is?
 He's Sento kun. He's a famous character of Nara. Sento kun is so cute that I want you to buy goods.
 Second, Look at the deer eating some Senbei. We can find deer in Nara park. Nara park is called Shika park by many people.
 Third, Do you know what this is? It's Hoppoji. It was made by Sho roku Taishi. It is known the Five-storied Pagoda.
 Lastly, Nara is so old that you'll know more about Japanese history. I want you to go to Nara.

Callouts from the image:

- 新出言語材料の使用①
アドバイスをもとに修正されている
- 奈良の名物の例示
- 詳しい説明
- 奈良を薦める理由
- 新出言語材料の使用②

【資料6】第三次で生徒が再構築した英文[rewriting]

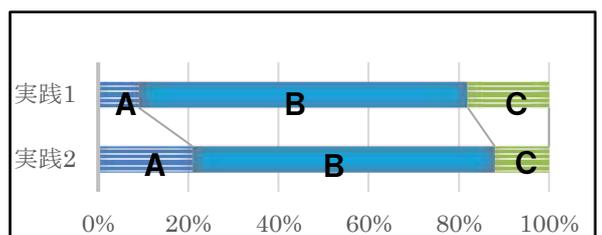
8 研修結果と考察

検証1 文法能力の高まり

それぞれの実践において、「伝えたいテーマや文脈に合う適切な言語材料や語句を使って文を書くことができたか。」を、英作文の記述から検証した。

A	新出言語材料を適切に文脈に合う形で3つ以上使い、かつ文章全体において概ね文を正しく書くことができる。
B	新出言語材料を適切に文脈に合う形で2つ使って、かつ文章全体において概ね文を正しく書くことができる。
C	新出言語材料を用いた文が1文以下で、かつ文章全体にエラーが多い。

実践1では、評価がAの生徒が9%、Bの生徒が73%、Cの生徒が18%であったのに対し、実践2では評価がAの生徒が21%、Bの生徒が67%、Cの生徒が12%であった。実践2では実践1と比較して評価Aの生徒が12%増えて、BとCの生徒が減った(資料7)。これは、実践2において1文英作文を学習プリントに書かせたことが有効に働いたと考えられる。また、新出言語材料の復習を行ったあとにアドバイス活動を行ったことで、アドバイス活動中に生徒に新出言語材料の間違いに対する視点を持たせたことが有効に働いたと考えられる。



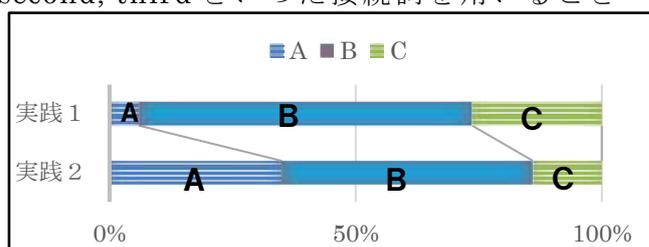
【資料7】文法能力のABC評価のクラス内の割合の推移

検証2 談話能力の高まり

それぞれの実践において「伝えたいテーマや文脈について理由や説明、例示を加えた複数の文から構成された複数の英文を書くことができたか。」を、英作文の記述から検証した。

A	理由、説明、例示の文が5文以上あり、かつ文章全体で8文以上書くことができる。
B	理由、説明、例示の文が3～5文あり、かつ文章全体で5～7文書くことができる。
C	文章全体で4文以下である。

実践1では評価がAの生徒が6%、Bの生徒が68%、Cの生徒が26%であったのに対し、実践2では評価がAの生徒が35%、Bの生徒が51%、Cの生徒が14%であった。実践2では実践1と比較して評価がAの生徒が29%増え、BとCが減った(資料8)。これは思考の流れを作るワークシートを使用することでアイデアの創出、アウトラインの作成、文章の構築という過程を「見える」化したことが効果的に働いたと考えられる。さらには、生徒の意欲を高めるために、生徒の経験に根差した活動主題を選択したことが有効だったと考えられる。また、実践1では生徒はALTに書いて伝えることをねらいとしたが、実践2では生徒はALTにプレゼンをするための原稿を書いて、話して伝えることをねらいとしたため、話し言葉となり一文ごとの語数の少ない短い文を多く使用した。結果として文の数が多くなったと考えられる。さらに、活動主題についての例示や説明を加える際に、*first, second, third*といった接続詞を用いることができるようにしている生徒が実践1よりも実践2の方が増えていた。同じ形でアウトラインを作ったことで、接続詞の意味や使い方が定着したと考えられる。



9 本研究の成果と課題

【資料8】 談話能力のABC評価のクラス内の割合の推移

(1) 本研究の成果

- 思考の流れを作るワークシートを用いることは、書く過程を「見える」化することで、生徒のアイデアの創出、アウトラインの作成、文章の構築を助けた。
- *first, second, third* といった接続詞を用いてアウトラインを作成することが定着していったことで説明、理由、例示について言及する談話能力が向上した。

(2) 本研究の課題

- アドバイス活動において、付加修正の視点をさらに多く与えたり、活動の形態をグループからペアにしたりするなどの手立てを講じることで、さらに文法能力を向上させることができる。
- 生徒が自ら表現したいという意欲を高める生徒の体験に根差した活動主題を設定していく必要がある。

<引用文献> 田畑義光・松井孝志(2008) パラグラフ・ライティング指導入門—中高での効果的なライティング指導のために— 大修館書店

<参考文献> 中学校学習指導要領 外国語編